令和４年度　　産業建設常任委員会活動報告書【最終報告】

１．活動テーマ（重点調査事項）
・アフターコロナの観光とまちづくり（コロナ禍を見据えた都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の現状と今後の見通し、事業者等への支援の展望、太陽の村冒険遊び場キッズバイクパーク交流人口拡大事業推進計画など）

２．そのほか委員会で取り上げたいとして計画書に掲げた調査事項
・水害対策
・イノシシを含む有害鳥獣対策事業の推進

３．活動実績（令和４年度）
〇所管事務調査
１）令和４年５月１０日（火）～１１日（水）
内容：①各課における事務事業の内容及び執行状況について
②今年度重点事業について
２）令和４年６月１４日（火）～１５日（水）上下水道課・商工観光課
内容：①「みやぎ型管理運営方式」導入後の浄水施設について
②船岡駅及び槻木駅の改集札業務について
３）令和４年１１月１１日（金）　農政課
内容：①地域再生計画等に係る太陽の村を拠点とした事業の現況と今後の展望について
４）令和４年１２月１６日（金）　都市建設課・商工観光課
内容：①船岡城址公園の整備事業計画と進捗状況について

〇団体懇談会
令和４年８月１日（月）
対象団体：柴田町上下水道組合員　７名
懇談テーマ：①上下水道業界を取り巻く社会環境について
②現状の課題と将来の展望について
③県施行の「みやぎ型管理運営方式」について
④町への要望など
〇行政視察
令和４年１０月１２日（水）・１０月１４日（金）（行政視察まとめ）
視察地：富谷宿観光交流ステーション「とみやど」
視察事項：富谷宿観光交流ステーション「とみやど」現在の利用状況や課題について

４．委員会としての成果及び反省
１．観光とは
観光とは何か、これに観光庁では観光ビジョンを「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりとしている。
これまでの「観光」は「観光施設」を訪れること、「非日常」を体験することであったが1990年代初頭のバブル崩壊以降、このような姿は見られなくなり、個人やグリーンツーリズムなどに象徴されるように、地域の暮らしぶりについて交流を通して楽しむという形に変化してきた。
「観光施設」がメインではなく、「地場の生活」が観光資源になってきている。いくら立

派な観光施設があっても、地域の「暮らしぶり」に魅力がなければ、観光は成り立たない。このことに多くの行政や関係者は気づき始めており、暮らしに基づいたものをブランド化している。

最初に「住んでよし」なのは地域の環境が住民の充足感になり、それがほかの地域の人たちに訪れたいという意識を醸成するからで、「訪れてよし」が先では一度見れば終わりの底の浅い「観光施設」重視になってしまうからである。これまでより個性的な旅を提供する、これが現在の観光のスタイルになっている。

地域の営みや雰囲気を楽しむ旅行は当然「観光施設周遊型」ではなく、「滞在交流型」に変化していくことにより「訪れてよし」につながっていく。

「住んでよし、訪れてよし」が現在の観光の本質を表していると考える。

２．新型コロナウイルス感染症の影響と柴田町の観光

新型コロナウイルス感染症が急激に広がり、柴田町の影響としては、船岡城址公園や白石川堤防の桜並木への来訪者が大幅に落ち込み、船岡城址公園のスロープカーの乗車人数が減り、柴田町観光物産協会が打撃を受けたことが挙げられる。しかし、町の経済に与えた影響は、メジャーな観光地ほどはなかったと考えている。

船岡城址公園の観光を否定するわけではないが、「住んでよし、訪れてよし」の観光という視点で見た場合、観光の捉え方が「観光地づくり」に偏重していないかと考える。

地元住民が当たり前として見過ごしているものが貴重な資源となり、地域の営みに基づいたものが地域ブランドとなり得る。研修で訪ねた「とみやど」にしても、地域住民はそれほど価値のあるものとは考えていなかったと思われる。奥州街道の宿場としての価値と、地元醸造業の歴史的資産が結びついて、新たな価値を創造したものと思う。

地域の長い歴史を振り返り、地域の栄枯盛衰や地域の成り立ちを解き明かし、「地元学」を地域全体で共有するところから柴田町の観光は始まると考える。そして以前はできていたこと、できるはずのことを創出することがスタートではないかと考える。

地元との交流もどのような人を相手にするのか、何を伝えるのかを地域と共有するところから始まると考える。

３．これから考慮すべき課題

①年間を通じて収益を得ているスロープカーの更新時期が確実にくるので、その資金計画の立案

②上記①の更新に当たっては、延伸を含めバリアフリー化を考えること

③白石川堤防の桜並木は常任委員会活動期間中に２本倒木している。桜並木の安全通行計画を作成するとともに、桜並木に変わる新たな資源を検討すること

４．総論

私たちの考えた観光の見方からすると、産業建設常任委員会の所管に収まりきれないものになっていった。具体的な案も検討したが、所管の範囲に限るという制限上、具体的な提案ができなかったことから、提言という形ではなく、活動の報告書としてまとめることとなった。

所管に捉われず、柴田町を俯瞰した立場での課題を各委員が共有できたという面では成果があった。

その課題を前提に、これからの議会活動に役立てていきたい。

産業建設常任委員会　所管事務調査結果一覧表（令和４年度）

調査日	調査所管課	調査結果内容
５月10日(火) ～11日(水)	上下水道課	○　地震後の対応については、宅地内での漏水の可能性もあるので水道メーターの点検等の啓蒙活動を進めていただきたい。同時に地震による被災者については当事者の立場に立った対応を考えてほしい。
6月14日(火) ～15日(水)	商工観光課	○　コミュニティプラザは現在、あまり利用されていない状況にある。給排水設備などの利用しやすい環境を整備し、活用を図ること。整備にあたっては、地方創生関係交付金などを活用するとともに、必要に応じて、駐車スペースの拡充も検討すること。
11月11日(金)	農政課	○　太陽の村はみやぎ仙南サイクルツーリズムのコースの休憩ポイントとなっていることから、コースの案内看板を設置する等、当該事業と連携して進めること。 ○　太陽の村で行っているマウンテンバイクの利用については、コースの拡大案として施設の外周道路や、里山ハイキングコース等へ伸長できないか検討すること。
12月16日(金)	都市建設課 商工観光課	○　船岡城址公園の未着工の整備計画については、利用状況を考慮し、安全性と自然環境を守りながら着手すること。 ○　スロープカーについて、モーターなどの個別改修については、設備全体の更新計画を示したうえで進めること。